

レポート

台湾でのNTNUとの短期デザインワークショップ

MDデザインコース2年, 国際プログラム生 藤本耕太郎

開催場所：台湾国立師範大（NTNU）

開催期間：2023年3月5日～9日

留学時の所属と学年：芸術工学部MDコース2年

<プログラムの目的>

教育現場における問題を、STEAM教育の手法によって解決する方法を新たにデザインする。これにより、芸工生の本分であるデザインの手法を実践的に学ぶとともに、その過程で学術的な場で英語を用いることを経験することである。さらにはこれらにより、生徒同士の交流を深めるのみならず、大学間の交流をより活発にする。

プログラムは小学校と女子高等学校の訪問を含む、5日間にわたって行われ最後に班ごとに問題点と解決策をプレゼンする形で行われました。まず学校訪問では台湾の教育現場におけるSTEAM教育への力の入れように驚きました。STEAM教育のための教室が作られていたり、教師側の教育も行っていたり、また女子高等学校ではSTEAM教育のための教材の開発を行う部屋もありました。日本ではこのような取り組みは少なくとも私の周りでは聞いたことが無いです。問題提起と解決策のデザインにおいては、フィールドワークの振り返り、教育上の問題提起、解決策の捻出という順序で行い、班内でのコミュニケーションは英語で行われました。このようなプロセスは日本での国際プログラムの授業でよく行ってきたもので、その経験を活かし筋道を立てて行うことができたと思います。また、コミュニケーションはスムーズに行えたとは言いがたかったですが、ジェスチャーなども用いながら最終的には意図を伝えることができ、その点は自信にもつながりました。しかし、それでもNTNUの学生と自分の間には英語力において大きな差があり、自分の学習の足りなさが悔やまれました。この点はオランダでの半年の留学に向けてしっかり対策していきたいと感じました。

学校以外のこと

ここからは学校外でのことについて自分の経験について話したいと思います。今回のプログラムでは学術的な部分はもちろん、NTNUの学生との学業以外での交流も重視されており、ともに食事をしたり台北を案内してもらったりと多くの時間をともに過ごすことができました。それについて語る前に、まず自分が台湾について気づいたことをいくつか述べておきます。ひとつめに、思ったより「日本」が浸透している、ということです。過去に日本の植民地であったことも関係あるのですが、地理的な近さも大きな要因でしよ

う。至る所に日本語が見られ、スシロー、モスバーガー、すき家、丸亀製麺などの日本の食事チェーンも多くあります。次に、トイレットペーパーは基本的にトイレに流せないということです。そもそもトイレットペーパーが備え付けてない、ということも多々あるようで台湾旅行には必携かもしれません。そして、台湾には夜市という文化が根付いています。観光名所ともなっていますが、現地の人も普通につかう台湾を語るうえで外せない文化のひとつでしょう。台湾の物価は基本的には日本よりは安いと思います。特に夜市では顕著です。NTNUの学生に昼食は毎日店に連れて行ってもらい、夜は夜市に連れて行ってもらったり最終日には一日かけて故宮博物館、動物園、夜景スポットなどに連れて行ってもらったりしました。彼らのホスピタリティには感謝してもしきれません。特に食べ物についてはさまざまな台湾独自の料理がある中で、ローカルなものから有名なものまで一押しものを教えてもらい、彼らのおかげで短い期間で台北を満喫することができました。また、台北には数多くの美術館や博物館があり、それらにいったことも新たなデザインの形を知るよい機会になりました。総じて今回の経験は将来の長期の留学に向けての非常に良い布石になったと感じています。出国、入国の手続きをはじめとして、留学では異国の地の異なる文化に慣れていく必要があること、その土地の言葉も多少なりとも知っておいた方が現地民とのやり取りが楽しいこと、そしてその土地を知っている人との交流の価値の大きさなどを知識ではなく体験として、身をもって知ることができました。本当に参加してよかったと心から思います。今度NTNUの学生が福岡に来た時にはお返しに精一杯のおもてなしをしようと思います。



台湾の学生と有名な鼎泰豊に行きました！



プログラムを修了して現地の学生が買ってくれたおやつを食べているところ